

講義名	卒業研究				
講義コード	14425	授業形態		開講期・曜日・時限	通年 月曜日 4 時限
担当教員	福田 哲也			サンバリンク・コード	

学部・学科	演習分野
心理社会学科・観光学科・人間健康学科	感情心理学/社会心理学/パーソナリティ心理学

概要説明
・このゼミで扱う領域 このゼミでは、心理学の中でも感情心理学・社会心理学・パーソナリティ心理学を中心に議論や研究を行います。 ・ゼミの概要 私たちは、日々の中で様々な社会的行動をとります。その行動は、行動をとった人のパーソナリティ（性格）で説明できるかもしれませんが、その人が置かれた状況で説明できるかもしれません。あるいは、その時の感情から説明できるかもしれません。そして、人の行動を説明することができれば、人の行動を予測することができます。このように、人の行動がパーソナリティや状況、感情によって説明あるいは予測できるのかを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。 以下のキーワードに関心がある人が本研究演習の対象者になります。 →感情・対人関係・コミュニケーション・社会的行動 ・研究演習Ⅰ・研究演習Ⅱ・卒業研究それぞれの予定。 (研究演習Ⅰ・Ⅱは、卒業研究を行うために必要な知識や技術を得るための演習と位置付けています) ①研究演習Ⅰ 研究論文の読み方や研究方法の理解を主な目的とします。各授業回では、文献の精読を行い、各自が発表を行います。その発表に対して、全員で議論を行います。 ②研究演習Ⅱ 前期は、研究演習Ⅰや他の授業で習得した知識を用いて複数人でグループ研究を行います。これらを通して研究実施に関する一連の流れ（研究計画の立案、実験・調査の実施、データ収集、解析、レポート報告）を体験します。後学期では、各自が関心のあるトピックの論文を精読し、発表します。それらを通して、卒業研究で取り組む具体的なテーマやトピックを絞っていきます。 ※受講生の関連授業の履修状況によっては、前期と後学期で行う内容を入れ替える可能性があります。 ③卒業研究 研究演習Ⅰ・Ⅱで学んだことを活かし、各自で卒業研究の実施および卒業論文の作成に取り組みます。卒業研究のテーマは、原則として自身が関心のある内容を選んでください。実施する卒業研究は、実験や調査などデータ収集を伴ったものとします。 なお、研究演習Ⅱで行ったグループ研究や卒業研究は、心理学関連の学術大会などで皆さん自身が発表することも視野にいられています（強制ではなく、時期や研究内容を鑑み、また皆さんの意思を尊重します）。 参考 ・2023年度の研究発表（https://www.umds.ac.jp/231201-3/） ・2024年度の研究発表（https://www.umds.ac.jp/241126/）

主な卒業論文のタイトル
流通科学大学で指導した卒業論文 ・獲得容易性が平均以上効果に及ぼす影響――自己効力感による調整効果の検討―― ・計画的行動理論に基づく社会的迷惑行為の生起過程の検討 ・学習動機が先延ばしに及ぼす影響――代表的な認知的変数との比較―― ・対人葛藤方略が受け手側の関係継続意図に与える影響――初対面時の対人葛藤場面の検討―― ・帰属スタイルと認知的評価が否定的感情に及ぼす影響――被攻撃場面に着目して―― 参考：他大学で指導した卒業研究 ・不幸の伝達が伝達者の印象及び被伝達者の自尊心に及ぼす影響――伝達時のシャーデンフロイデの表出を考慮して―― ・恋人獲得行動と恋人として期待される要因との関連――特定の好意を抱く人物がいない場合に着目して―― ・主観的幸福感と協調的幸福感が自己嫌悪感に及ぼす影響 ・隠蔽の有無による羞恥感情の差の検討

教員よりの要望
①ゼミや研究活動を通して、多くの問題や障害にぶつかることがあると思います。その際、どのようにすれば、それらを乗り越えられるのかをしっかりと考えることを心がけてください。 ②ゼミは参加者全員で作り上げるものだと考えています。ですので、他の人の発表などに対して、積極的に意見を出してください。

選考方法
「面談」と「演習申込書」をもとに選考を行います。 ※面談は事前連絡を行ったうえで、必ず来てください。演習申込書は、研究演習において、どのようなことを研究したいのかを書いてください。

評価方法	
発表や受講態度、レポートなどをもとに総合的に評価	